

様式 1-1

大学等名	東北文科大学
プログラム名	東北文科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

人間科学部

③ 修了要件

人間科学分野におけるデータやAIの利活用ならびにそれに伴う社会の変化や、情報倫理の重要性を理解し、データやAIを適切に扱う基礎的な能力・技術を獲得する。

教育プログラムの対象科目と修了要件については、人間科学部が設置している子ども教育学科、人間関係学科それぞれの特性に応じて、設定する。

人間科学部・子ども教育学科においては、「コンピュータ基礎演習」(1単位)、「情報科学」(2単位)、「コンピュータ応用演習」(1単位)の単位を修得すること。

人間科学部・人間関係学科においては、「基礎ゼミⅠ」(1単位)、「基礎ゼミⅡ」(1単位)、「情報倫理」(2単位)、「情報処理演習Ⅰ」(1単位)、「情報処理演習Ⅱ」(1単位)の単位を修得するとともに、「情報処理演習Ⅲ」(1単位)または「情報検索」(1単位)のいずれかの単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数

3

科目

4

単位

履修必須の有無

令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
情報科学(子ども教育学科)	2	○	○	○					
基礎ゼミⅠ(人間関係学科)	1	○	○	○					
情報倫理(人間関係学科)	2	○	○	○					
情報処理演習Ⅱ(人間関係学科)	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
情報科学(子ども教育学科)	2	○	○	○					
情報処理演習Ⅱ(人間関係学科)	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
情報科学(子ども教育学科)	2	○	○	○					
基礎ゼミⅠ(人間関係学科)	1	○		○					
情報倫理(人間関係学科)	2	○		○					
情報処理演習Ⅱ(人間関係学科)	1	○	○	○					

⑦ 「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
情報科学(子ども教育学科)	2	○	○	○					
基礎ゼミⅡ(人間関係学科)	1	○	○						
情報倫理(人間関係学科)	2	○	○	○					

- ⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ基礎演習(子ども教育学科)	1	○	○	○	○						
情報科学(子ども教育学科)	2	○	○	○	○						
コンピュータ応用演習(子ども教育学科)	1	○		○	○						
基礎ゼミⅠ(人間関係学科)	1	○	○	○							
情報処理演習Ⅰ(人間関係学科)	1	○	○	○	○						
情報処理演習Ⅱ(人間関係学科)	1	○	○	○	○						

- ⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報科学(子ども教育学科)	4-1統計および数理基礎		
情報処理演習Ⅰ(人間関係学科)	4-1統計および数理基礎		
情報処理演習Ⅱ(人間関係学科)	4-1統計および数理基礎		
情報処理演習Ⅲ(人間関係学科)	4-2アルゴリズム基礎		
情報検索(人間関係学科)	4-5テキスト解析		

- ⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 (子ども教育学科) ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「情報科学 第1回～第3回」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報科学 第3回」 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報科学 第1回～第3回」 ・複数技術を組み合わせたAIサービス「情報科学 第12回」 ・人間の知的活動とAIの関係性「情報科学 第13回」 (人間関係学科) ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット「情報処理演習Ⅱ 第2回」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報処理演習Ⅱ 第2回」 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報処理演習Ⅱ 第2回」 ・複数技術を組み合わせたAIサービス「基礎ゼミⅠ 第12～15回」 ・人間の知的活動とAIの関係性「基礎ゼミⅠ 第12～15回」、「情報倫理 第13回」
	1-6 (子ども教育学科) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「情報科学 第11回」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報科学 第2回～第4回」 (人間関係学科) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「基礎ゼミⅠ 第12～15回」、「情報倫理 第13回」、 「情報処理演習Ⅱ 第2,4回」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「基礎ゼミⅠ 第12～15回」、 「情報処理演習Ⅱ 第4回」
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 (子ども教育学科) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報科学 第4回～第5回」 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報科学 第7回」 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「情報科学 第7回」 ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「情報科学 第4回」 ・データのオープン化(オープンデータ)「情報科学 第4回」 (人間関係学科) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報処理演習Ⅱ 第3回」 ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報処理演習Ⅱ 第3回」 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「情報処理演習Ⅱ 第3,14,15回」
	1-3 (子ども教育学科) ・データ・AI活用領域の広がりが(生産、消費、文化活動など)「情報科学 第4回、第12回～第13回」 (人間関係学科) ・データ・AI活用領域の広がりが(生産、消費、文化活動など)「情報処理演習Ⅱ 第3回」 ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報処理演習Ⅱ 第3回」 ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「情報処理演習Ⅱ 第3回」
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 (子ども教育学科) ・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「情報科学 第9回～第11回」 ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報科学 第9回～第11回」 (人間関係学科) ・データ解析:予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など「情報処理演習Ⅱ 第4回」 ・データ可視化:複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「情報処理演習Ⅱ 第4回」
	1-5 (子ども教育学科) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報科学 第10回～第11回」 ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「情報科学 第4回、第12回～第13回」 (人間関係学科) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報処理演習Ⅱ 第4回」 ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「基礎ゼミⅠ 第12～15回」、 「情報倫理 第13回」

(4)活用に当たったの様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	(子ども教育学科) ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報科学 第14回」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「情報科学 第14回」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「情報科学 第14回」 (人間関係学科) ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「基礎ゼミⅡ 第9回」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「基礎ゼミⅡ 第9回」、「情報倫理 第10回」 ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「基礎ゼミⅡ 第9回」、「情報倫理 第10回」 ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報倫理 第13回」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「基礎ゼミⅡ 第9回」、「情報倫理 第13回」
	3-2	(子ども教育学科) ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報科学 第6回」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報科学 第6回」 ・サイバーセキュリティ「情報科学 第6回」 (人間関係学科) ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報倫理 第3.4回」 ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報倫理 第3.4回」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報倫理 第3.4回」 ・サイバーセキュリティ「情報倫理 第3.4回」
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	(子ども教育学科) ・データの種類(量的変数、質的変数)「コンピュータ基礎演習 第10回～第11回」、「情報科学 第7回～第8回」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「コンピュータ基礎演習 第10回～第11回」、「情報科学 第7回～第8回」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「コンピュータ基礎演習 第10回～第11回」、「情報科学 第7回～第8回」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報科学 第8回」 ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「情報科学 第8回」 ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「情報科学 第9回」 (人間関係学科) ・データの種類(量的変数、質的変数)「情報処理演習Ⅱ 第13回」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報処理演習Ⅰ 第13～15回」、「情報処理演習Ⅱ 第7.8回」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「情報処理演習Ⅰ 第13～15回」、「情報処理演習Ⅱ 第7.8回」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「情報処理演習Ⅰ 第13～15回」、「情報処理演習Ⅱ 第9回」 ・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)「情報処理演習Ⅰ 第13～15回」、「情報処理演習Ⅱ 第10.11回」 ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「基礎ゼミⅠ 第11.12回」、「情報処理演習Ⅰ 第13～15回」、「情報処理演習Ⅱ 第12.13回」 ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「情報処理演習Ⅱ 第5.6回」 ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「基礎ゼミⅠ 第11.12回」
	2-2	(子ども教育学科) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「コンピュータ基礎演習 第10回～第11回」、「情報科学 第7回～第9回」、「コンピュータ応用演習 第9回」 ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「コンピュータ基礎演習 第10回～第11回」、「情報科学 第7回～第9回」 (人間関係学科) ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)「情報処理演習Ⅰ 第9回」、「情報処理演習Ⅱ 第7～15回」 ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「情報処理演習Ⅰ 第13～15回」、「情報処理演習Ⅱ 第7～15回」 ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、 unnecessary 視覚的要素)「基礎ゼミⅠ 第11.12回」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「基礎ゼミⅠ 第12～15回」
	2-3	(子ども教育学科) ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「コンピュータ基礎演習 第9回」、「情報科学 第7回」 ・データの集計(和、平均)「コンピュータ基礎演習 第9回」、「情報科学 第8回」、「コンピュータ応用演習 第13回」 ・データの並び替え、ランキング「コンピュータ基礎演習 第9回」、「コンピュータ応用演習 第13回」 (人間関係学科) ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「情報処理演習Ⅰ 第8回」、「情報処理演習Ⅱ 第3回」 ・データの集計(和、平均)「情報処理演習Ⅰ 第8回」、「情報処理演習Ⅱ 第7～15回」 ・データの並び替え、ランキング「情報処理演習Ⅰ 第10～12回」、「情報処理演習Ⅱ 第7～15回」

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

人間科学分野におけるデータやAIの利活用ならびにそれに伴う社会の変化や、情報倫理の重要性を理解し、データやAIを適切に扱う基礎的な能力・技術を獲得する。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 142人 女性 317人 (合計 459人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学 定員	収容 定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数 合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
人間科学部・子ども教育学科	269	70	290	66	0											66	23%
人間科学部・人間関係学科	190	60	250	3	0											3	1%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合 計	459	130	540	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	13%

大学等名 東北文教大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 39 人 (非常勤) 63 人

② プログラムの授業を教えている教員数 3 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 鈴木 隆

(役職名) 副学長(教育担当)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

教務委員会 数理・DS・AI教育プログラム推進小委員会 (東北文教大学 数理・DS・AI教育プログラム推進委員会)

(責任者名) 鈴木 隆

(役職名) 教務委員会 委員長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

東北文教大学 数理・DS・AI教育プログラム推進委員会規程

⑥ 体制の目的

数理・データサイエンス・AIへの関心を高めること、人間科学分野におけるデータやAIの活用ならびにそれに伴う社会の変化や、情報倫理の重要性を理解し、データやAIを適切に扱う基礎的な能力・技術を育成することを目的とするとともに、東北文教大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する事項を審議するものである。

なお、本プログラムを立ち上げた令和6年度においては、教務委員会の小委員会として数理・DS・AI教育プログラム推進小委員会を設置していたが、令和7年4月1日に数理・DS・AI教育プログラム推進委員会に格上げし、学内のより重要な組織として位置付けた。

⑦ 具体的な構成員

教務委員会 委員長 鈴木隆
子ども教育学科 准教授 眞壁豊
人間関係学科 准教授 依田平
学務課 山本幾子 鈴木美緒 久原千瑳

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	13%	令和7年度予定	20%	令和8年度予定	25%
令和9年度予定	30%	令和10年度予定	40%	収容定員(名)	540

具体的な計画

上記目標を実現するために、オリエンテーションの教務ガイダンスにおいて、本プログラムの重要性を説明するとともに履修を推奨している。

本プログラムは令和6年度入学者より開始され、現時点の履修者は1学年のみである。このため、履修者数が限られ、実績が低い状況である。学科別では、子ども教育学科の履修者が多く、人間関係学科は少ない。これは、両学科で1年次に提供されるプログラム対象科目の差異に起因している。子ども教育学科では卒業必修科目のみがプログラム対象科目であり、当該必修科目の単位修得者全員をプログラムの履修対象者として挙げている。一方、人間関係学科では卒業必修科目だけでなく卒業選択科目もプログラム対象科目に含まれていることから、個別に確認したプログラム履修希望者の数を挙げている。

2年次以降にもプログラム科目が提供されるため、オリエンテーションなどを通じて本プログラムを改めて周知することで、子ども教育学科では履修率の維持、人間関係学科では履修率の向上を図りたいと考えている。

今後の社会情勢次第では本プログラムを必修化することも避けられないと考えているが、現時点においてはそのための具体的な計画はない。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

子ども教育学科においては、本プログラムの対象科目のうち、1科目が卒業必修科目、2科目が選択科目である。前者は全員が受講可能なのは言うまでもない。後者のうち「コンピュータ応用演習」は教職課程の必修にあたるので、これも全員が受講可能となる時間割の配置である。残る「情報科学」について、本プログラムを希望する全員が受講できるよう、時間割において競合科目の調整を行っている。

人間関係学科においては、本プログラムの対象科目7科目は全て基礎教育科目に配置されている。この内、3科目が卒業必修科目、4科目が選択科目である。卒業必修科目は全員が受講可能なのは言うまでもない。選択科目については、本プログラムを希望する全員が対象科目を受講できるよう、時間割において競合科目の調整を行っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの周知は、プログラムの目的と概要等を記載したチラシをオリエンテーションにおいて配布し、行っている。

また、本学のWebサイト(<https://www.t-bunkyo.ac.jp/mdash/>)にも本プログラムの情報を掲載し、学生が修了要件や対象科目などの情報の確認が行いやすい環境を整えている。

令和7年度においては、本プログラムの対象科目である1年次の卒業必修科目の中でも、本プログラムの意義を改めて周知することも予定している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムの対象科目のうち、卒業要件上の選択科目については、本プログラムを希望する全員が受講できるよう時間割上の配慮を行っている。

本学では「Google Workspace for Education Fundamentals」に基づき、全学生と教職員に対してGoogleアカウントを発行している。このアカウントを利用した、Gmailによる連絡体制、Google Classroomによる資料のアーカイブ体制によって、学生のサポートを行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「Google Workspace for Education Fundamentals」に基づき発行したGoogleアカウントを利用することで、Gmailによる質問の常時対応、Google Classroomによる授業資料の確認が可能となっている。

また、教員ごとにオフィスアワーを設けているため、授業時間外の学生の質疑応答にも対面であたることができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

教務委員会 数理・DS・AI教育プログラム推進小委員会 (東北文科大学 数理・DS・AI教育プログラム推進委員会)

(責任者名) 鈴木 隆

(役職名) 教務委員会 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度は旧教務委員会の数理・DS・AI教育プログラム推進小委員会にて、履修・修得状況の確認を行った。 本学では令和6年度入学者のカリキュラムより、本プログラムを開始した。両学科ともに2年次以降にもプログラム対象科目が開講されるため、2年次のオリエンテーションにて本プログラムを改めて周知したい。 また、本学ではActive Portal(教務情報システム)により、学生・教員ともに、学生の履修状況、各回の講義の出欠、成績や単位修得状況を随時、確認することができる。両学科ともに、出席状況を中心に、授業への取組が芳しくない学生の確認ならびに情報共有に努めており、修得状況に対する全学的な体制も整っている。
学修成果	本学では教育開発センターが主体となって授業アンケートを行っており、この結果を本プログラムの評価・改善につなげることができる。授業アンケートは匿名で行っているため、本プログラム履修者の個々の回答については不明である。しかしながら、教務情報システムにより本プログラム履修者の個々の成績を確認することが可能であるため、この確認結果を本プログラムの評価・改善につなげることができる。なお、現時点における本プログラム履修者のプログラム対象科目の成績は良好である。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学の教育開発センターが主体となって行っている授業アンケートでは、授業の到達目標の達成度の自己評価を行っている。この学生自身による自己評価は授業担当者も確認することができ、これと成績評価との関連性を確認することで、授業内容や成績評価の妥当性を判断することができる。この仕組みを本プログラムの評価・改善につなげることができる。なお、現時点における本プログラム履修者のプログラム対象科目の達成度の自己評価と成績はともに良好である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では授業アンケートを後輩学生への履修推奨科目を示すための手段として活用はしていない。しかしながら、授業アンケートの結果に対して、授業担当教員にコメントを求め、期間を決めてその返答を学内で閲覧できる体制を整えている。この返答を後輩学生は履修時の参考情報として活用することができる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムは令和6年度入学者より開始されている。子ども教育学科は履修者が多く、人間関係学科は少ないが、これは両学科で1年次に提供されるプログラム対象科目の差異に起因している。 両学科ともに2年次以降にもプログラム対象科目が開講されることから、オリエンテーションにて本プログラムの重要性を改めて周知することにより、子ども教育学科では履修率の維持、人間関係学科では履修率の向上を図りたいと考えている。 令和7年度以降の入学者に対しては、令和6年度の状況を踏まえ、オリエンテーションに加え、卒業必修科目かつ本プログラム対象科目においても本プログラムの重要性を周知したいと考えている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	両学科ともに、2年次以降に本プログラムの必修科目が開講されるため、現時点で修了者はいない。 ・教育職 子ども教育学科の卒業生は、教育データの利活用において、データ・AIを扱う上での留意事項を踏まえつつ、教育DXの推進において、データ・AIを有効に活用できると考えられる。 ・一般職 本学では、2024年度より法人GAIを業務に導入する環境を整えた。これに際して、FD・SD研修会を実施し、企業等で生成AIの業務利用が促進されている実情を確認した。また、本学の卒業生が勤める事業所においても、生成AIの業務利用が進んでいる状況が確認されている。本学の教育プログラムでは生成AIも相応に扱っており、企業等の期待に応えるものと考えられる
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界からの本プログラムに対する意見を直接伺うことはこれまで行っていない。しかしながら、本学では年1回ステークホルダーとの意見交換会を開催しており、この意見交換会の産業界からの意見を求める機会にしたいと考えている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	子ども教育学科においては、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、社会や学校での実例・想定例をもとに、AI等がどのような活用をされているかを中心に、好奇心を促す講義・演習内容としている。取り上げる実例については、学生から入力されたデータから個人情報を除いたデータを用い、その分析をもとに考察させる内容を実施している。 人間関係学科においては、1年前期の卒業必修科目でもある「基礎ゼミⅠ」や「情報倫理」の授業を通して、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」についての理解を深めるよう取り組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	子ども教育学科においては、学生アンケートからの意見や成績状況を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義・演習の内容・実施方法の見直しを検討している。特にAI関連については、主な就職先となる学校教育機関での、子どもや保護者によるAI活用状況も取り入れ、今後のカリキュラム構成の見直しを検討する。 人間関係学科においては、1年次の卒業必修科目でもある「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」や「情報倫理」で生成AIも扱うように努めている。また、既存科目の「情報検索」や「情報処理演習Ⅲ」がモデルカリキュラムに対応した内容を扱っていたため、本プログラムの選択科目とすることで本プログラムの充実化をはかっている。

コンピュータ基礎演習

更新日：2023/11/17 14:24:56

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3103990	授業コード	E022, E024
担当教員	眞壁 豊						
備考	ナンバリング: UCE1051002						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 子ども教育学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

この科目は、4年間にわたる大学での学びの基礎的な位置づけとして、コンピュータを用いた基本的な情報活用能力に着目したものである。社会の出来事に幅広く関心を持ち、理解するための知識・技能の修得を目指して、基礎教育科目の「情報処理」に区分されており、卒業必修科目として配置している。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
			○	△						
備考										

授業の概要

まず授業の冒頭では、本学の情報流通環境の1つであり、また世界の主たるクラウド環境の1つであるGoogle Workspace環境に慣れる。その後は、ワープロを活用した基本的なアカデミックライティングの手法、論文検索の方法ならびに引用方法、表計算の基本的な使い方など、大学生活におけるドキュメント製作に必要な技能をひとつとり習得するための授業を行う。また、最後に簡単なプログラミング教育環境に触れることで、現代的な教育の情報化の考え方についても扱う。

達成目標・到達目標

1	アカデミックライティングの手法について理解し、余計な装飾抜きに条件通りのレポートや論文を作成することができる。
2	レポートに挿入する簡単な表を、表計算ソフトを用いて作成することができる。
3	ビジネス文書について基本的な構成やマナーを理解した上で、自力で作成することができる。
4	Scratchを用いて簡単なプログラミングを構成することができる。

単位認定の要件

授業内で指定された提出物やレポートについて、条件を満たした上でもれなく提出することができること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 20% 期末試験: 0% 授業内試験: 0% 授業内提出物: 80% 授業内活動: 0% 外部試験: 0%

授業計画

1	Google Workspace環境のセットアップ、Gmailの使い方 Google Workspace環境への、スマートフォンへの設定、Google Workspace環境でできることの概観を扱う。また、Gmail環境における署名の設定、電子メールの送受信、返信の方法について扱う。
2	スマートフォンを用いた音声入力 スマートフォン環境における音声入力環境を確認し、また実際に体験することにより、現在の情報通信技術の一端について実感を持つとともに、その便利さを実感する。
3	電子メールの形式・作法、ファイル添付の方法 学業や仕事で電子メールを送信する際に、必要となる電子メールの作法、そして電子メールにおけるTo、Cc、Bccの違いなどについて扱う。ならびに、電子メールにファイルを添付する方法についても扱う。
4	文献検索の方法、文献情報の見方 論文、書籍、新聞、Webなど、あらゆる文献に関する、文献情報の記載方法を扱い、また自分のレポートや論文に文献情報を記載する際のルールを理解し、実際に活用できるようにする。
5	文献情報の記載方法と論文の読み方 前回より正確な文献情報の記載を目指すとともに、論文の基本構造を理解し、論文に目を通す際の指針を学ぶ。
6	パソコン環境におけるGoogle Workspace環境の扱い方 パソコンのブラウザからGmailなどのGoogle Workspace環境を扱うための基本的な事項を扱う。特に、ブラウザを通した本学Googleアカウントを用いたログインと、その後のGmail環境に関する、スマートフォン環境との大きな違いについて扱う。
7	文献の引用の方法 文献の検索方法、ならびに文献情報の書き方の復習を抑えた上で、適切な引用の方法について扱う。
8	ビジネス形式文書の作成方法 組織内外のあらゆる相手に向けて用件を伝えるための、ビジネス文書の形式、ならびにその作成手法について扱う。
9	表計算によるデータ入力の基本、簡単なデータ集計の方法 表計算ソフトへの、データ入力の方法と、関数を用いた簡単なデータ集計の方法について扱う。
10	質的データのアンケートデータ集計の方法 表計算ソフト上で、質的データによるアンケートの単純集計を行う際の表現手法について扱い、簡単な度数分布表の作成について扱う。

11	量的データのアンケートデータ集計の方法、ヒストグラム 表計算ソフト上で、量的データの集計を行う際の度数分布表の作成方法について扱い、またヒストグラムの作成について扱う。
12	プレゼンテーションスライド作成の基本 スライド作成ソフトを用いて、簡単な発表用スライドを作成する手法について扱う。
13	Scratchによるプログラミングの基本 プログラミング環境であるScratchを用いて、誰もがプログラミングを構成することができるという基本的な考え方について扱う。
14	Scratchによるプログラミング Scratchを用いて、チュートリアルの内容を改造したり、自分で考えた、簡単なプログラミングを構成する。
15	教育の情報化・プログラミング教育 平成29年告示の小学校学習指導要領にて、小学校で実施されることとなった「プログラミング教育」について、その概観と、「プログラミング的思考」の考え方について扱うとともに、教育の情報化について扱う。

時間外学修

各授業回について、学習したい内容を用いて実際にデータやファイルを作成してみること。（各回約30分程度）
課された課題について学内外で主体的に取り組み、課題を提出する。（各90分程度）

課題に対するフィードバック

提出された課題の内容によって、理解の乏しい部分について授業中に補足をする予定である。

使用テキスト・教材

基本方針	授業中に教材プリントを配布。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考文献等

「J-Stage」 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
「Scratch」 <https://scratch.mit.edu/>

備考

情報科学

更新日：2024/02/29 20:23:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	1112100	授業コード	E300
担当教員	眞壁 豊						
備考	ナンバリング：UCE1051001						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 子ども教育学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	2	
	備考(配当)	講義					

科目のねらい

現代を生きる我々は、あらゆるデータに囲まれながら、さまざまな統計資料や、膨大なデータ（ビッグデータ）と機械学習に支えられた人工知能（AI）の技術に支えられながら日々生活している。この、あらゆるデータ、あらゆるAI技術をただ盲信するのではなく、その背景にある仕組みや技術について理解し、また能動的にデータと向き合うための最低限の知識が必要となる。この科目は、社会の出来事に幅広く関心を持ち、理解するための知識・技能の修得を目指して、基礎教育科目の「情報処理」に区分されており、選択科目として配置している。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		○		△						
備考										

授業の概要

AIやデータサイエンスに関連する基本的な事項について、これらが現代社会においてなぜ必要とされ、またどのように活用されているのかについて、社会的な背景とともに丁寧に概観していく。また、適切なデータの扱い方や、実際のデータを用いた統計的仮説検定についても扱い、確率の考え方に基づく意志決定の手法についても扱ってゆく。

達成目標・到達目標

1	AIやデータサイエンスに関する用語の意味を自分の言葉で説明することができる。
2	AIやデータサイエンスに関する事項が、現代の社会生活を支える基盤となっていることを理解し、説明することができる。
3	データの収集、処理、表現について、コンピュータを用いつつ、適切な統計的手法に基づいて考察・結論を導くことができる。
4	AIやデータを生活・学修・仕事・研究等に活かしていく上で、発生するであろうリスクを把握し、リスクを回避したり、リスクに直面したときの対処法を提案することができる。

単位認定の要件

授業で設定する課題の全てについて、不正な剽窃等を行うことなく、条件を満たす形で自らがまとめた成果を作成し提出すること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート：40％ 授業内提出物：30％ 授業内活動：30％

授業計画

1	ガイダンス 数理・データサイエンス・AIをなぜ学ぶのか、その現代における社会的背景や、またこれらを学ぶにあたっての心構えについて扱う。
2	AIにサポートされる社会 AIの活用例についていくつかの事例を学び、特に生成AI（生成型AI）がもたらす社会のインパクトについて、多角的な視点から扱う。
3	情報をめぐる世の中の潮流 社会に流通する「情報」がどのように生成され、また価値を運び、そして「ビッグデータ」という言葉を生み出すまでに至ったのか。その過程について概観し、また「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」の言葉が持つ意味、関連するキーワード、そしてこれらに関連して現代において取り組まなければならない事項や諸問題について扱う。
4	広がるデータ活用の幅 AIによる処理結果に用いている「データ」が、実際にはどのように取得され、また活用されているのか。いくつかの事例をもとに、「データ」そのものが持つ価値、「データ」を活用する価値について扱う。
5	AI開発の歴史といま これまでの「AIブーム」を振り返り、現代における「機会学習」や「ディープラーニング」の恩恵によってもたらされた「第3次AIブーム」は、これまでのものと比べて何が違っており、また生活の中でAIを活用してゆくために、AIにできることの限界を知り、また悪用にどう対応するかについて扱う。
6	情報倫理とセキュリティ 情報・データを安全に運用するために必要な要素について扱う。また、この必要な要素を満たすための諸技術や、人間側が注意すべき行動指針について扱う。
7	データの種類とその活用 質的データ、量的データをはじめとしたデータの種類、そしてデータの活用方法や、オープンデータなどのデータの取得方法について扱う。
8	データリテラシー 簡単な数値的データ群をもとに、平均や分散、標準偏差などといった代表値の求め方について扱う。また正規分布に関する性質を押さえる。その上で、コンピュータ上でこれら代表値を算出するための、各種関数についても扱う。

9	データの収集と視覚化 データをグラフとして表現する際の、さまざまなグラフの種類や、グラフで表現する際に気を付けるべき点について扱う。また、データを収集する際に気にすべき「標本調査」と「全数調査」の違いについても扱う。
10	データの解析方法 収集した標本データをもとに、統計的仮説検定や、統計的推定の考え方と、その具体的な方法について扱う。特に平均の差の検定（t検定）と、カイ二乗検定について、その使用場面と実際の使い方について扱う。
11	情報の利活用と方法 データの可視化について、最も手軽な方法としてグラフを扱ったが、最近では機械学習によるAIの発達により、コンピュータがデータを扱い、学習し、また出力する仕方が変化してきた。ここでは「機械学習」と「ディープラーニング」を焦点に、現代のAI技術がどのような考え方に基づいて構成されているのかについて扱う。
12	AIによる生活のアップデート AI技術の進歩によって、多様な入力・出力の仕方が出来るようになった現代において、どのような場面でAI技術が活用されているのか。具体的な場面を例示しながら、我々の生活がAIによってどのように変化してきたかについて扱う。
13	AIによる社会のアップデート AIによるヒトの活動のアップデートは、生活という個々人の視点のみならず、社会という多数の人間が関わる場においてもアップデートが行われている。具体的にどのような場面で、AIの技術が社会全体の質の向上に貢献しているのかについて、事例をもとに学ぶ。
14	秩序あるデータの重要性 AIや人間が「データ」を扱う際には、問題が生じた際の責任の所在を明らかにしておかなければならない。そして、現代においてはAI技術の発展に、法や社会が追いついていない現状もある。その状況下でも、各種データや統計資料、AIに向き合う際に気を付けなければならない点について扱う。
15	まとめ～これからの学びに向けて 今後、データサイエンスに関連した学びを、自律的に進めてゆくために必要な基本的考え方や、自身で自動化・コーディングを行うにあたり身近にある開発環境について扱ってゆく。

時間外学修

毎回の授業の講義内容を復習し、授業内外の資料とともにノートにまとめておく。（毎回2時間程度）
設定された課題に対する成果物を作成する。（課題ごとに各回約5時間程度）

課題に対するフィードバック

回収した課題の成果物をもとに、受講生の理解の内容に基づいて授業内でフォローアップを行う。

使用テキスト・教材

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	大学基礎 データサイエンス	実教出版	2023年8月	伊藤大河、川村和也、内田瑛、河合麗奈 著

参考文献等

総務省「情報通信白書」 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/>
総務省統計局「e-Stat」 <https://www.e-stat.go.jp/>

備考

授業の進行上、インターネットに接続されたパソコン環境を持参しての受講を強く推奨する。自前のノートパソコンや、学内で借りることができる端末を持ち込み、授業に臨むこと。

また当科目の課題の中には、Googleスプレッドシート、あるいはMicrosoft Excel等、いわゆる「表計算ソフト」の活用を必須とする設題を設ける予定である。時間外学修には、コンピュータ室や個人所有パソコンなど、インターネットに接続された端末環境は必須であることを把握した上で履修すること。

コンピュータ応用演習

更新日：2024/02/19 12:52:32

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3103710	授業コード	E175, E176
担当教員	大野 寛						
備考	ナンバリング: UCE1053003						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 子ども教育学科					
	配当時期	3年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

大学における学習活動や社会での活動に活用できる応用的な情報技術を演習を通して習得する。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
			○	△						
備考										

授業の概要

はじめに、画像処理と文書処理技術を扱う。特に、画像や図形を利用した情報量の多い文書の作成や論文など長文の編集技術を習得する。
次に、表計算ソフトを用いた数値処理を扱う。複数の表を連携させリレーショナルデータベース的に扱う技術や様々な条件下で計算を行う技術を習得し、複雑な計算処理が行えることを目指す。その後、統計処理を演習する。

達成目標・到達目標

1	①10分間で500字以上文字入力できる。
2	②複数の表や画像を用いたビジネス文書を作成できる。
3	③表計算ソフトでグラフ機能を活用できる。
4	④複数の表を連携させた表計算処理や様々な条件下での計算処理ができる。
5	⑤統計処理ができる。

単位認定の要件

文書処理について、①10分間で400文字以上の文書作成ができること、②図形や表などを含む情報量が多い文書を20分程度で作成できること。表計算処理については、③グラフの活用、④別表を参照する関数やデータベース関数・統計処理の関数が利用できること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 0% 期末試験: 0% 授業内試験: 80% 授業内提出物: 0% 授業内活動: 20% 外部試験: 0%

授業計画

1	イントロダクション 授業内容の説明。基本スキルの確認
2	画像 画像データの扱いについて演習する
3	様々な文書作成 1 図形等を利用した文書作成の演習 1
4	様々な文書作成 2 図形等を利用した文書作成の演習 2
5	様々な文書作成 3 図形等を利用した文書作成の演習 3
6	様々な文書作成 4 段組み等を利用した情報量の多い文書作成の演習
7	文書作成まとめ 図形等を利用した文書作成の課題
8	表計算処理の復習 表計算処理の基本的な技術について復習する。
9	グラフ処理等 グラフ機能を利用した視覚化の学習、および、文字列操作関数
10	表参照処理 別表を参照し、必要なデータを探したり、処理を分ける方法を演習
11	条件付き計算 条件付き計算をデータベース関数を用いて処理する方法を演習
12	総合演習 表計算処理に関する実技課題

13	統計処理 基本的な統計量の計算
14	統計的推定・検定 標本データから統計量を推定する方法を演習 標本データを分析して得た特徴を統計的に評価する検定方法を演習
15	まとめ 総合的な課題

時間外学修

授業で行った演習問題や操作を反復して練習すること（各回1～2時間）。"

課題に対するフィードバック

授業内に説明する。

使用テキスト・教材

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考文献等

『30時間でマスターWord&Excel2016』（実教出版）

備考

・WORD, EXCELがインストールされた自分のノートパソコンを持ち込んで受講することも可能です。

基礎ゼミⅠ

更新日：2024/03/25 18:32:15

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	1110100	授業コード	H004, H005, H006, H007
担当教員	阿部 いそみ, 佐藤 亜実, 依田 平, 津坂 貢政						
備考	ナンバリング: UHR1011001						

配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

「基礎教養科目」として配置されている本科目は、地域社会や職場で豊かな人間関係を築くために必要な幅広い教養の修得をめざし、自己を取り巻く世界や環境を知り、多角的視点からものを考える力をつけることを目的とするものである。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		△					△	△		
備考										

授業の概要

大学教育における学びを最大化するための基礎的な技能として、学修に関する基礎的な知識・技能の修得を目的とし、論理的な表現力、伝わる表現力の基礎的な養成を目標とし、論説的な文章や調査に基づくデータを読解し、意味を取り出すトレーニングを行う。また、その意味を伝える的確な表現の重要性を理解しレポートの作成方法を修得する。

加えて、グループワークを通して、データ・AI活用の最新動向やそれに伴う社会の変化についても理解を深める。

達成目標・到達目標

1	論理的な表現力でレポートを書くことができる
2	データ分析能力を身に付け、グラフや数的情報から事実を推定することができる
3	伝わる表現＝コミュニケーションの基本を理解し、実践することができる

単位認定の要件

上記の各能力を評価するために課される課題を6割以上クリアすることが単位取得の基本条件である。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 40% 期末試験: 0% 授業内試験: 0% 授業内提出物: 40% 授業内活動: 20% 外部試験: 0%

授業計画

1	ガイダンス 授業の目標、流れを押さえる。授業の位置づけを知る。
2	表現力とは何か：情報を伝える 〈表現すること〉＝〈伝わること〉という、この授業の考え方を事例を通して知る。
3	表現力とは何か：メッセージを伝える 実際に言葉を使ってメッセージの伝達を試み、伝わり具合を実感する。 適切なメールの作成方法・注意事項を知る。
4	表現力とは何か：情報を適切に伝える 現代の多様な表現方法（メディアの活用）の意義を実例を通して学ぶ。 教員とアポイントを取るためのメール作成の方法・注意事項を確認し、メール作成を実践する。
5	説明文を読み、伝える技術 現代社会のキーワードをめぐる説明文を読み、概要を伝えるために不可欠な要素の拾い出し方を学ぶ。 説明のための図式化の方法と注意事項を知る。
6	説明文を読み、伝える技術を練習する 課題の文章から要点を書き出して図式化を行い、図式化のメリットを知る。 専門的な内容を説明するための図式化の方法・注意事項を確認し、図式化を実践する。
7	文章をつなぐ 文章作成に不可欠な接続詞の役割を学ぶ。 接続詞の用法を穴埋め形式で確認する。
8	文章を構成する 接続詞を適切に使い、文章を構成する練習を行う。 議論・論証を前提とする文章の接続詞の用法を確認したうえで作文する。
9	レポートの書き方を学ぶ レポート作成に必要な基礎知識を学ぶ。 レポート作成上間違いやすい例を確認し、添削を行う。

10	レポートの書き方に慣れる ここまでで学んだレポート作成に関する知識を活用し、レポート作成の練習をする。 参考文献を実際に調べてサンプルレポートを作成するための注意事項を確認する。
11	調査データ読解の基礎を学ぶ 白書などの「調査データに基づく報告」の成り立ちや意味を知り、正確に情報を読み取るスキルを学ぶ。 各種グラフの特性と短所・長所を見極める。
12	調査データを読解してまとめる 調査データ分析からまとめる方法を学ぶ。 データから何が読み取れるかをクイズ形式で確認する。 次回からのグループワークに必要な情報の収集を開始する。 グループワークの課題テーマは「AIをどのように活用していきたいか」。
13	調査結果を報告書にまとめる方法を学ぶ データの意味づけ作業をグループで行い、それぞれの結果を集結してみる。 課題テーマについて、論証に必要なデータを持ち寄り、妥当性の検討を行う。
14	調査結果を報告する 前回までに集結したデータを活用し議論した結果をグループで発表することで、各班の議論を共有する。 発表に必要な要素を網羅した提示用の文章にまとめ、全員体制で口頭発表を行う。
15	まとめ 全体のまとめ。ここまで体験したエクササイズの意味を確認する。

時間外学修

- ・授業資料を熟読し、予習および要点を自分で説明できるようにノートなどにまとめる。
1時間×15回＝15時間
 - ・各回の授業内容に即した課題に取り組む。各項目1.5時間×10回＝15時間
- 1)誤りのある電子メールを修正する。 2)教員とアポイントメントをとるための電子メールを作成する。
3)案内のための図式を作成する。 4)専門的な内容を図式化する。 5)課題文に正しい接続詞を加えて完成させる。6)レポート構成に沿った論説文を作成する。
7)誤りのあるレポートを添削する。8)所定のテーマに必要な参考文献を検索しリスト化する。9)労働に関する資料を収集しまとめる。10)グループ発表のための発表原稿を作成する。

課題に対するフィードバック

授業内の各課題は、授業内或いは後の授業回にて、全体に対する講評を行う。

使用テキスト・教材

基本方針	プリント教材、及びテキスト。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 [第3版] 』	慶應義塾大学出版会	2019	

参考文献等

学習技術研究会 編『知へのステップ[第5版] 』（くろしお出版、2019年）
竹田茂生、藤木清『知のワークブック』（くろしお出版、2006年）
千以子『思考を鍛える大学の学び入門 [第2版—論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶應義塾大学出版会、2020年）
伊藤大河、川村和也、内田瑛、河合麗奈『大学基礎 データサイエンス』（実教出版、2023年）

井下

備考

4クラスに分かれて授業を行う。

基礎ゼミⅡ

更新日：2025/03/03 16:58:12

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	1110200	授業コード	H175, H176, H177, H178
担当教員	阿部 いそみ, 佐藤 亜実, 依田 平, 津坂 貢政						
備考	ナンバリング: UHR1011002						

配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

「基礎教養科目」として配置されている本科目は、地域社会や職場で豊かな人間関係を築くために必要な幅広い教養の修得をめざし、自己を取り巻く世界や環境を知り、多角的視点からものを考える力をつけることを目的とするものである。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	△						△	△		
備考										

授業の概要

「基礎ゼミⅠ」に引き続き、コミュニケーション能力と各専門分野について考えるための基礎的思考力を修得することを目的とし、コミュニケーションに必要なツールの有効な活用方法とプレゼンテーションの意義を理解する。また、的確な課題設定と調査、探究の基礎を学び、適切な表現方法を用いてプレゼンテーションを個人で行えることを目標とする。

達成目標・到達目標

1	メディアの特性を知り、自分の発表でツールを適切に使うことができる
2	プレゼンテーションの場面で、身体の動かし方、プレゼンツールなどを適切に使うことができる
3	プレゼンテーションの質疑応答を含め、再構成した内容でレポートを書くことができる

単位認定の要件

上記の各能力を評価するために課される課題を6割以上クリアすることが単位取得の基本条件である。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 40% 期末試験: 0% 授業内試験: 0% 授業内提出物: 30% 授業内活動: 30% 外部試験: 0%

授業計画

1	ガイダンスメディアとプレゼン① 授業の目標や流れを押さえ、授業の位置づけを知る。 新聞記事の基本構造を学び、プレゼン要素に置き換える。
2	メディアとプレゼン② 新聞記事の構成要素とプレゼン要素の共通性を学び、実際にプレゼン用スライドに置き換える。
3	メディアとプレゼン③ 写真の使い方、写真とキャプションの関係を知る、プレゼン要素との関係を学ぶ。
4	メディアとプレゼン④ ニュース番組を例に、構成手法の詳細や話し手の話し方、身振りなどを学び、プレゼンテーションへの活用方法を知る。
5	個人発表に向けて① 課題文読解 課題テキストの構成を分析しながら内容を読み取る。
6	個人発表に向けて② 課題文のスライド化 課題テキストを図式化し、要点をプレゼンテーション用にスライド化してみる。
7	個人発表に向けて③ 発表のテーマ探し 課題テキストの主張に対する疑問を見出し、その解答のために調査すべき事柄を考える。課題テキストのまとめをデータにして提出する。
8	個人発表に向けて④ 発表テーマの決定 個人発表用のテーマを決定し、発表全体の構成を考える。
9	個人発表に向けて⑤ 引用とデータやAIを扱う上での留意事項 適切な引用のやり方について改めて確認するとともに、資料作成にデータやAIを利用する際の留意事項についても確認する。
10	個人発表に向けて⑥プレゼンテーションの練習 個人発表にむけて、実際に話し方・身振りなどの練習を行う。
11	発表に向けた個別相談 仮提出された発表用データに基づき、個別相談を行う。
12	プレゼンテーションの実施① 第一グループの個人発表および質疑応答を行う。 各発表担当者は、配布資料を必要枚数印刷して持参すること。

13	プレゼンテーションの実施② 第二グループの個人発表および質疑応答を行う。 各発表担当者は、配布資料を必要枚数印刷して持参すること。
14	プレゼンテーションの実施③ 第三グループの個人発表および質疑応答を行う。 各発表担当者は、配布資料を必要枚数印刷して持参すること。
15	まとめとレポート作成の準備 授業全体のまとめと期末レポート作成要領・注意事項の確認。

時間外学修

配布資料を熟読し、自分の言葉で説明できるように要点をA4用紙1枚くらいの分量にまとめておくこと（各回1時間程度）。
授業前半においては、日常的に新聞の記事などに目を通し、その構造がプレゼンと共通することを確認し、スマートフォンなどで撮影しストックしておくこと。授業後半においては、そのストックを参照しながら自分の発表の準備に時間を充分費やすこと（各回1時間程度）。

課題に対するフィードバック

発表で必要とされる資料（事前の仮提出を必須とする）については、内容をチェックした上で、添削し返却する。

使用テキスト・教材

基本方針	プリント教材、及びテキスト。尚、テキストは「基礎ゼミ」と同じ（井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 [第3版]』慶應義塾大学出版会、2019）。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考文献等

学習技術研究会 編『知へのステップ[第5版]』（くろしお出版、2019年）
竹田茂生、藤木清『知のワークブック』（くろしお出版、2006年）

井下千以子『思考を鍛える大学の学び入門 [第2版—論理的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶應義塾大学出版会、2020年）

備考

基礎ゼミⅠと同じく4クラスに分かれて行う。

情報倫理

更新日：2024/03/13 13:22:51

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3104300	授業コード	H035, H073
担当教員	依田 平						
備考	ナンバリング: UHR1051029						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	2	
	備考(配当)	講義					

科目のねらい

「基礎教養科目」として配置されている本科目は、地域社会や職場で豊かな人間関係を築くために必要な幅広い教養の修得をめざし、自己を取り巻く世界や環境を知り、多角的視点からものを考える力をつけることを目的とするものである。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	△						△	△		
備考										

授業の概要

大学における学修活動や社会での活動に必要な「情報に関する倫理」の基本的、実践的な知識を修得する。
インターネットとスマートフォンの普及によって、著作権やプライバシー、個人情報などへの理解と配慮が求められる社会になっている。この科目では、実際におこった事件や事故を例にこれらの問題について考えるとともに、自己を理解し他者の考えや立場も尊重しながら主体的に行動する力を養う。例えば、プライバシーだけを尊重する状況は表現の自由を損なう可能性が高い。このような、自身の権利と他者の権利の衝突が発生する状況において、より良い妥協点を考えていくことがこの科目の目的である。

達成目標・到達目標

1	知的財産について理解し、著作権や商標権を侵害しない振る舞いを説明できる。
2	肖像権やプライバシーと表現の自由について理解し、より適切な写真の撮影や公開ができるようになる。
3	インターネット上でのマナーやモラルを理解し、炎上対策を説明できる。
4	インターネット端末のセキュリティ対策を知り、実践できる。

単位認定の要件

上記①～④を総合して、60点以上の点数に到達すること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 50% 期末試験: 0% 授業内試験: 0% 授業内提出物: 50% 授業内活動: 0% 外部試験: 0%

授業計画

1	ガイダンス、アカウントの管理 授業の概要を説明する。また、大学が発行するアカウントについて説明する。
2	情報社会とは 我々を取り巻く情報社会や、日々接しているメディアについて理解する。
3	メールマナーとパスワード管理 電子メールを送るときのマナーとパスワードの管理について学ぶ。
4	セキュリティ技術 マルウェアや不正アクセスについて、それを防ぐための技術とともに学ぶ。
5	倫理とは 倫理とは何か。正義、ルール、モラル、マナーなどとあわせて考察する。
6	知的財産と知的財産権 知的財産とは何かを理解し、知的財産権について学ぶ。
7	商標と商標権 商標とは何かを理解し、商標権について学ぶ。
8	著作物と著作権 著作物とは何かを理解し、著作権について学ぶ。
9	著作物の利用 引用や参考など、学生生活などの身近な場面における著作物の利用のマナーを学ぶ。
10	個人情報 個人情報と個人情報保護法について学ぶ。
11	肖像権① 肖像権とは何かについて学ぶ。また、プライバシー権との関連についても学ぶ。
12	肖像権② 肖像権と表現の自由の兼ね合いについて考える。

13	生成AIと著作権・個人情報・肖像権 生成AIが著作権・個人情報・肖像権に与える影響について学ぶ。
14	情報社会における判断 デマに振り回されないよう、情報社会での情報の取捨選択について理解する。
15	情報社会におけるマナーやモラルとまとめ 炎上の事例を題材に、情報社会で求められるマナーやモラルについて考える。 また、最後に本授業の振り返りを行う。

時間外学修

- ・授業内容に関するコメントペーパーを記入すること（目安時間：毎週約1時間）
- ・新聞やテレビ、インターネットなどで報じられる、インターネットに関するニュースに接し、気になったキーワードなどをメモしておくこと（目安時間：毎週約1時間）。
- ・携帯電話やパソコンなどの情報端末の日々の使い方を見直すこと（目安時間：約10時間）。
- ・期末レポートの作成に取り組むこと（目安時間：約20時間）

課題に対するフィードバック

授業内で全体に対して説明する。

使用テキスト・教材

基本方針	授業中に教材プリントを配布			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考文献等

- ・高橋慈子ほか，『情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』，技術評論社，2014
- ・小泉直樹，『知的財産法入門 (岩波新書)』，岩波書店，2010
- ・福井健策，『18歳の著作権入門 (ちくまプリマー新書)』，筑摩書房，2015

備考

情報処理演習Ⅰ

更新日：2024/02/19 12:52:02

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3108900	授業コード	H173, H192
担当教員	大野 寛						
備考	ナンバリング: UHR1051031						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

「基礎教養科目」として配置されている本科目は、地域社会や職場で豊かな人間関係を築くために必要な幅広い教養の修得をめざし、自己を取り巻く世界や環境を知り、多角的視点からものを考える力をつけることを目的とするものである。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	△						△	△		
備考										

授業の概要

はじめに、画像処理と文書処理技術を扱う。特に、画像や図形を利用した情報量の多い文書の作成や論文など長文の編集技術を習得する。
次に、表計算ソフトを用いた数値処理を扱う。複数の表を連携させリレーショナルデータベース的に扱う技術や様々な条件下で計算を行う技術を習得し、複雑な計算処理が行えることを目指す。その後、統計処理を演習する。

達成目標・到達目標

1	①10分間で500字以上文字入力できる。
2	②複数の表や画像を用いたビジネス文書を作成できる。
3	③表計算ソフトでグラフ機能を活用できる。
4	④複数の表を連携させた表計算処理や様々な条件下での計算処理ができる。
5	⑤統計処理ができる。

単位認定の要件

文書処理について、①10分間で400文字以上の文書作成ができること、②図形や表などを含む情報量が多い文書を20分程度で作成できること。表計算処理については、③グラフの活用、④別表を参照する関数やデータベース関数・統計処理の関数が利用できること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 0% 期末試験: 0% 授業内試験: 80% 授業内提出物: 0% 授業内活動: 20% 外部試験: 0%

授業計画

1	イントロダクション 授業内容の説明。基本スキルの確認
2	画像 画像データの扱いについて演習する
3	様々な文書作成 1 図形等を利用した文書作成の演習 1
4	様々な文書作成 2 図形等を利用した文書作成の演習 2
5	様々な文書作成 3 図形等を利用した文書作成の演習 3
6	様々な文書作成 4 段組み等を利用した情報量の多い文書作成の演習
7	文書作成まとめ 図形等を利用した文書作成の実技課題
8	表計算処理の復習 表計算処理の基本的な技術について復習する。
9	グラフ処理等 グラフ機能を利用した視覚化の学習、および、文字列操作関数
10	表参照処理 別表を参照し、必要なデータを探したり、処理を分ける方法を演習
11	条件付き計算 条件付き計算をデータベース関数を用いて処理する方法を演習

12	総合演習 表計算処理に関する実技課題
13	統計処理 基本的な統計量の計算
14	統計的推定・検定 標本データから統計量を推定する方法を演習 標本データを分析して得た特徴を統計的に評価する検定方法を演習
15	まとめ 総合的な課題

時間外学修

授業で行った演習問題や操作を反復して練習すること（各回1～2時間）。"

課題に対するフィードバック

授業内に説明する。

使用テキスト・教材

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考文献等

『30時間でマスターWord&Excel2016』（実教出版）
前期「コンピュータ基礎演習」で使用したテキストを使います。

備考

・WORD, EXCELがインストールされた自分のノートパソコンを持ち込んで受講することも可能です。

情報処理演習 II

更新日：2024/03/21 14:42:45

開講年度	2024	学期	前期	科目コード	3109000	授業コード	H132, H143
担当教員	依田 平						
備考	ナンバリング: UHR1052032						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

この科目は、現代社会において重要な技能である、情報の収集、整理、加工、編集、評価から発信という情報処理能力を養うために設置された科目である。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	△						△	△		
備考										

授業の概要

政府の「AI戦略2019」では、理系・文系を問わず、全ての大学生が「初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得すること」を目標としている。本授業では、社会におけるAI・データの利活用ならびにデータサイエンスの根幹となるデータリテラシー（データの正確な読み書き能力）の基礎について学ぶ。

達成目標・到達目標

1	データ・AIによって、社会や日常生活がどのように変化しているのかを説明できるようになる。
2	今のAIでできることとできないことを説明できるようになる。
3	調査データを、正しく読むことができるようになる。
4	調査データについて、目的に沿った分析方法を選択し、分析できるようになる。
5	表計算ソフトを用いて、分析結果を適切な図表で表現できるようになる。

単位認定の要件

上記1～3を総合して、60点以上の点数に到達すること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 50% 期末試験: 0% 授業内試験: 0% 授業内提出物: 50% 授業内活動: 0% 外部試験: 0%

授業計画

1	ガイダンスとデータサイエンスを学ぶ心構え 授業の概要を説明する。また、データサイエンスを学ぶ心構えについても確認する。
2	データ・AIの利活用と社会の変化 データ・AI利活用の最新動向を学ぶとともに、それに伴う社会の変化についても確認する。
3	様々なデータとデータ・AIの利活用領域 社会で活用されている様々なデータについて学ぶとともに、データ・AIが活用されている領域についても確認する。
4	データ・AIの利活用の技術と現場 データ・AIを利活用するための各種技術や現場について、AI開発の歴史も踏まえて確認する。
5	表計算ソフトによるデータ集計(1) 表計算検定1級程度の問題を題材に、表計算ソフト（Excel)のデータベース関数によるデータ集計について学ぶ。
6	表計算ソフトによるデータ集計(2) 表計算ソフト（Excel)のピボットテーブルによるクロス集計について学ぶ。
7	度数分布表とヒストグラム 度数分布表とヒストグラムの表す意味を知り、それらを作成する。
8	代表値 平均値・中央値・最頻値の意味を知り、それらの値を求める。
9	分散と標準偏差 分散と標準偏差を求めて、データの散らばりを理解する。
10	2変数の関連(1) 散布図、単相関係数を作成する。
11	2変数の関連(2) 相関関係、因果関係、疑似相関の違いについて理解する。
12	統計的検定 統計的仮説検定を理解する。

13	アンケートの設計とデータの種類 アンケートの設計において重要な質的データと量的データの違いについて理解する。
14	データマイニングとテキストマイニング 膨大なデータから情報を抽出するデータマイニングについて確認する。また、テキストマイニングの特徴についても学ぶ。
15	テキストマイニングの実践とまとめ テキストマイニングの手法を実践する。最後に授業のまとめを行う。

時間外学修

次の内容それぞれについて、5時間程度取り組むこと。

- ・AIやデータサイエンスに関する用いたニュースなどを積極的に見る。授業で習った内容を復習すること。
- ・授業内で指示される課題に取り組むこと。
- ・期末課題に取り組むこと。

課題に対するフィードバック

授業内で全体に対して解説を行う。また、必要に応じて、個別に解説を行う。

使用テキスト・教材

基本方針	授業中に教材プリントを配布			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考

参考文献等

- ・情報処理演習Ⅰで指定されたテキスト
- ・伊藤大河ほか、『大学基礎 データサイエンス』，実教出版，2023
- ・中室牧子ほか，『「原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法』，ダイヤモンド社，2017
- ・大上丈彦，『マンガでわかる統計学 素朴な疑問からゆる〜く解説』，SBクリエイティブ，2012

備考

- ・情報処理演習Ⅰで学ぶExcelの知識を前提としています。
Excelに不安のある人は、本授業の受講の前に情報処理演習Ⅰを受講しておいてください。
- ・数学に苦手意識のある人は、復習をよく行ってください。
- ・USBメモリを持参してください。

情報処理演習Ⅲ

更新日：2024/01/26 16:03:34

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	3109100	授業コード	H182
担当教員	大野 寛						
備考	ナンバリング: UHR1052033						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	2年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

「基礎教育科目」として配置されている本科目は、学修や学内外の諸活動等を通して、幅広い教養を身につけるとともに、自己を取り巻く世界や環境を知ること等多角的なものの見方、考え方ができることを目的としている。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	△						△	△		
備考										

授業の概要

より効率的な情報処理技術を修得するため表計算ソフト上で利用するプログラミング技術を学修する。基本的なアルゴリズムとGUIオブジェクトの利用法を学修したのち、表計算処理をより活用できるような実用的プログラムの作成を演習する。

達成目標・到達目標

1	変数や配列を理解しプログラムの中で活用できる
2	条件分岐やループ処理などの言語に依らない基本的なプログラム文法を理解する
3	V B A プログラムの基本的な文法を理解する

単位認定の要件

授業内で課す演習問題等をすべて提出すること。
まとめの課題で6割以上の成績をとること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 0% 期末試験: 0% 授業内試験: 0% 授業内提出物: 80% 授業内活動: 20% 外部試験: 0%

授業計画

1	ガイダンス 授業概要の説明 表計算ソフト上でのプログラム作成と編集
2	基本的 VBA プログラム 1 ・セル座標の扱い ・変数の利用
3	基本的 VBA プログラム 2 ・条件に応じ処理をわけけるためのIF文 ・ループによる繰り返し処理等
4	ワークシートを便利にするプログラム 1 別表を参照する処理について、関数を利用した処理からプログラムを利用した方法に段階的に移行する。
5	ワークシートを便利にするプログラム 2 条件分岐の処理を応用して、必要なデータのみを抽出するプログラムを作成する。
6	ワークシートを便利にするプログラム 3 ここまでの内容に関し練習問題を行う。
7	ワークシートを便利にするプログラム 4 ここまでの内容に関し練習問題を行う。
8	さまざまなコントロール 1 ワークシート上に配置し V B A プログラムを割り当てる様々コントロールオブジェクトについて使い方を演習する。
9	さまざまなコントロール 2 ワークシート上に配置し V B A プログラムを割り当てる様々コントロールオブジェクトについて使い方を演習する。
10	コントロールを利用したプログラム 1 ・ワークシートを制御するプログラムを演習する。 ・一括した処理を行うためにループ処理を応用する。
11	コントロールを利用したプログラム 2 ユーザフォームを利用したプログラムを演習する。

12	コントロールを利用したプログラム 3 ユーザフォームを利用したプログラムを演習する。
13	コントロールを利用したプログラム 4 ここまでの内容に関し練習問題を行う。
14	総合演習 まとめとして自力でプログラムを作成する。
15	総合演習 まとめとして自力でプログラムを作成する。

時間外学修

授業で行った演習問題や操作を反復して練習すること（各回1～2時間）。

課題に対するフィードバック

授業内で話題にする

使用テキスト・教材

基本方針				
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	30時間でマスター EXCEL VBA	実教出版	2023年3月10 日	

参考文献等

備考

・自分のノートパソコンを持ち込んで受講することも可能です。

情報検索

更新日：2024/03/05 14:13:12

開講年度	2024	学期	後期	科目コード	8300900	授業コード	H194
担当教員	依田 平						
備考	ナンバリング: UHR1051030						
配当	学部/学科	大学 人間科学部 人間関係学科					
	配当時期	1年	曜日/時限	一	単位	1	
	備考(配当)	演習					

科目のねらい

「基礎教養科目」として配置されている本科目は、地域社会や職場で豊かな人間関係を築くために必要な幅広い教養の修得をめざし、自己を取り巻く世界や環境を知り、多角的視点からものを考える力をつけることを目的とするものである。

DP中項目との対応

DP中項目との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	△						△	△		
備考										

授業の概要

ググるという言葉が一般化したことから分かるように、現在は知りたいことをWebで検索することが日常化している。この背景には、情報検索において、検索者の障壁になっていた点のサポート機能をGoogleが充実させた点がある。
この科目では、そもそも情報検索とはどのようなものなのか、そして当初の情報検索にはどのような問題があったのかを学ぶとともに、Googleが実現させたサポート機能について学ぶ。さらに、近年急速に普及しているテキスト生成AIについても学ぶ。

達成目標・到達目標

1	検索キーワードの選び方や論理演算子の基礎的な使い方などを理解し、状況に応じた適切な検索式が作成できる。
2	情報検索において、Googleが充実させたサポート機能について説明できる。
3	テキスト解析の技術について簡単な説明ができる。
4	検索結果の評価方法を説明することができる。

単位認定の要件

上記1～4を総合して、60点以上の点数に到達すること。

単位の認定方法及び割合

期末レポート: 30% 期末試験: 0% 授業内試験: 20% 授業内提出物: 50% 授業内活動: 0% 外部試験: 0%

授業計画

1	ガイダンス 授業の概要を理解する。
2	Webとサーチエンジン Webの発展とサーチエンジンが登場した経緯について学ぶ。
3	キーワード検索 キーワード検索とはそもそもどういったものなのかを理解する。
4	検索式と論理演算（基礎編） 検索式とは何かを学ぶ。また、AND，OR，NOTの三つの論理演算の基礎についても学ぶ。
5	Googleのサポート機能 形態素解析（単語分割・n-gram含む）や表記のゆれへの対応などの、サポート機能について学ぶ。
6	検索結果の表示順 PageRankや単語分散表現など、検索結果の表示順に影響を与える要素について学ぶ。
7	Googleでできる様々な検索 Googleでできる種々な検索について学ぶとともに、Yahooとの違いについても確認する。
8	ChatGPTのプロンプト作成 ChatGPTを利用して、適切なプロンプトの作り方を学ぶ。
9	検索演習 GoogleやChatGPTを利用して、様々な検索を行う。
10	Web情報の信頼性 Web情報の信頼性や取捨選択方法について学ぶ。
11	データベースとデータベースの検索 データベースの概要ならびに、基本的な検索方法について学ぶ。
12	部分一致検索とワイルドカード 部分一致検索とその実現に利用されるワイルドカードについて学ぶ。

13	論理演算子（応用編） ANDやORを組み合わせた検索について、検索式の作り方や検索時の注意点を学ぶ。
14	検索結果の評価 検索結果の評価方法ならびに評価を高めるための検索方針について学ぶ。
15	データベース検索演習とまとめ 授業のまとめを行うとともに、データベースの検索についての小テストを行う。

時間外学修

- ・授業内の課題に取り組む（計10時間程度）
- ・期末課題に取り組む（計5時間程度）

課題に対するフィードバック

課題の採点を行い返却する。正答率の低い課題については、全体に対して解説を行う。
また、授業内の課題については、間違った問題の再提出を認める。

使用テキスト・教材

基本方針	必要に応じて教材プリントも配布するが、テキストも購入すること。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
必須	CD-ROMで学ぶ 情報検索の演習(新訂 4 版)	日外アソシエーツ	2013	

参考文献等

- ・中島玲子ほか、『スキルアップ！情報検索 基本と実践』，日外アソシエーツ，2017
- ・こもりまさあきほか、『Webサイト、これからどうなるの？ キーワードから探るWeb制作の未来像』，インプレス，2017
- ・カレーちゃんほか、『面倒なことはChatGPTにやらせよう (KS情報科学専門書)』，講談社，2024

備考

授業内試験は一番最後の授業で行う。
欠席が6回以上の者には受験資格を与えないので注意すること。

区 分	科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		必修	幼教	保育	小学	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
基礎 教育 科目	入門ゼミ	基礎ゼミⅠ	演習	1	30	◎●							◎		●		「基礎教育科目」16単位 (うち必修5単位)
		基礎ゼミⅡ	演習	1	30		◎●						◎		●		
	基礎 教養	文章表現の技術	講義	2	30			△									小区分「基礎教養」から4単位以上
		N I E	講義	2	30			△									
		くらしと倫理学	講義	2	30				△								
		くらしと文学	講義	2	30		△										
		くらしと憲法	講義	2	30	■◆								■		◆	
		くらしと経済	講義	2	30	○集中									○		
		世界の学校教育	講義	2	30			△集中									
		社会教育を考える	講義	2	30			○							○		
		生物学の探究	講義	2	30	△											
		環境と生物を考える	講義	2	30	△集中											
		人間と宇宙を考える	講義	2	30	△											
		海外語学研修	実習	2	90	△	△	△	△	△							
	外国 語	英語Ⅰ	演習	1	30	△		△									
		英語Ⅱ	演習	1	30		△		△								
		英語コミュニケーションⅠ	演習	1	30	◎■◆							◎	■	●	◆	
		英語コミュニケーションⅡ	演習	1	30		■○◆							■	○	◆	
		韓国語Ⅰ	演習	1	30	△											
		韓国語Ⅱ	演習	1	30		△										
		中国語Ⅰ	演習	1	30	△											
		中国語Ⅱ	演習	1	30		△										
		フランス語Ⅰ	演習	1	30	△											
		フランス語Ⅱ	演習	1	30		△										
	保健 体育	スポーツサイエンスⅠ	講義・実技	1	30	◎■◆							◎	■	●	◆	
		スポーツサイエンスⅡ	講義・実技	1	30				■◆○						■	○	◆
	情報 処理	情報科学	講義	2	30			△									
		コンピュータ基礎演習	演習	1	30	◎■◆							◎	■	●	◆	
		コンピュータ応用演習	演習	1	30					■◆				■		◆	
		マルチメディア演習	演習	1	30		△										
専門 教育 科目	保育・ 教育の 基礎	教育原理	講義	2	30	◎■◆							◎	■	●	◆	「専門教育科目」28単位 (うち必修17単位)
		教職概論	講義	2	30		◎■◆○						◎	■	○	◆	
		教育制度論	講義	2	30					◎■◆○			◎	■	○	◆	
		発達心理学	講義	2	30	◎■◆							◎	■	●	◆	
		乳幼児心理学	講義	2	30						○				○		
		児童心理学	講義	2	30			■◆○						■	○	◆	
		特別支援教育	演習	1	30				■◆					■		◆	
		教育課程論	講義	2	30		◎■◆						◎	■	●	◆	
		教育方法論	講義	2	30					■○				■	○		
		教育の方法と技術 (情報通信技術の活用含む)	講義	2	30				◎■◆○				◎	■	○	◆	
		幼児理解の理論と方法	講義	2	30					■				■			
		教育相談	講義	2	30							■◆		■		◆	
		保育原理	講義	2	30		◎●						◎		●		
		保育者論	講義	2	30						●				●		
		乳児保育Ⅰ	講義	2	30	●									●		
		乳児保育Ⅱ	演習	1	30		●								●		
		子ども家庭福祉	講義	2	30			●							●		
		社会福祉	講義	2	30			●							●		
		子ども家庭支援論	講義	2	30						●				●		
		社会的養護Ⅰ	講義	2	30	●									●		
		社会的養護Ⅱ	演習	1	30				●						●		
		家庭支援の心理学	講義	2	30				●						●		
		子どもの理解と援助	演習	1	30					●					●		
		子どもの保健	講義	2	30		●								●		
		子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1	30					●					●		
		子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1	30						●				●		

区 分	科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		必修	幼教	保育	小学	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門 教育科目		子どもの健康と安全	演習	1	30		●								●		
		障害児保育	演習	2	30	●									●		
		子育て支援	演習	1	30							●			●		
		児童文化論	講義	2	30					○					○		
		教育心理学	講義	2	30				◆							◆	
	領域及び指導法（保育系）	保育内容総論	演習	1	30	◎■●							◎	■	●		小区分「領域及び指導法（保育系）」 から4単位以上 （うち必修1単位）
		幼児と健康	演習	1	30		■●							■	●		
		幼児と人間関係	演習	1	30		■●							■	●		
		幼児と環境	演習	1	30		■●							■	●		
		幼児と言葉	演習	1	30	■●								■	●		
		幼児と身体表現	演習	1	30	■●								■	●		
		幼児と造形表現	演習	1	30	■●※								■	●※		
		幼児と音楽表現	演習	1	30		■●							■	●		
		保育内容（健康）の指導法A	演習	1	30		■●							■	●		
		保育内容（健康）の指導法B	演習	1	30			■○						■	○		
		保育内容（人間関係）の指導法A	演習	1	30		■●							■	●		
		保育内容（人間関係）の指導法B	演習	1	30			■○						■	○		
		保育内容（環境）の指導法A	演習	1	30		■●							■	●		
		保育内容（環境）の指導法B	演習	1	30			■○						■	○		
		保育内容（言葉）の指導法A	演習	1	30		■●							■	●		
		保育内容（言葉）の指導法B	演習	1	30			■○						■	○		
		保育内容（表現）の指導法A	演習	1	30		■●							■	●		
		保育内容（表現）の指導法B	演習	1	30			■○						■	○		
	教科及び指導法（小学校系）	国語Ⅰ（書写を含む）	講義	2	30		◎●◆						◎		●◆		小区分「領域及び指導法（小学校系）」 から5単位以上 （うち必修2単位）
		国語Ⅱ	講義	2	30					□◇※				□		◇	
		社会Ⅰ	講義	2	30	◆										◆	
		社会Ⅱ	講義	2	30					◇※						◇	
		算数Ⅰ	講義	2	30		◆									◆	
		算数Ⅱ	講義	2	30					◇※						◇	
		理科Ⅰ	講義	2	30	◆										◆	
		理科Ⅱ	講義	2	30					◇※						◇	
		生活Ⅰ	講義	2	30				◆							◆	
		生活Ⅱ	講義	2	30					◇※						◇	
		音楽Ⅰ	演習	1	30	□○※◆								□※	○※	◆	
		音楽Ⅱ	演習	1	30		□○※◆							□※	○※	◆	
		図画工作	演習	1	30		□○※◆							□※	○※	◆	
		家庭Ⅰ	講義	2	30		◆									◆	
		家庭Ⅱ	講義	2	30					◇※						◇	
		体育	演習	1	30		□○※◆							□※	○※	◆	
		英語	演習	1	30		◆									◆	
		国語科教育法A	演習	1	30			◆								◆	
		国語科教育法B	演習	1	30				◆							◆	
		社会科教育法	講義	2	30				◆							◆	
		算数科教育法A	演習	1	30			◆								◆	
		算数科教育法B	演習	1	30				◆							◆	
		理科教育法A	演習	1	30			◆								◆	
		理科教育法B	演習	1	30				◆							◆	
		生活科教育法	講義	2	30					◆						◆	
		音楽科教育法	講義	2	30				◆							◆	
		図画工作科教育法	講義	2	30				◆							◆	
		家庭科教育法	講義	2	30				◆							◆	
		体育科教育法	講義	2	30			◆								◆	
		外国語（英語）教育法	講義	2	30			◆								◆	
		道徳の理論・指導法	講義	2	30				◆							◆	
		総合的な学習の時間の指導法	演習	1	30				◆							◆	
		特別活動の指導法	講義	2	30				◆							◆	

区 分	科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		必修	幼教	保育	小学	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門教育科目	保育・教育の実践	生徒・進路指導論	講義	2	30				◆集中							◆	
		保育実習指導ⅠA	演習	1	30		●		●						●		
		保育実習指導ⅠB	演習	1	30				●						●		
		保育実習ⅠA	実習	2	90		●								●		
		保育実習ⅠB	実習	2	90				●						●		
		保育実習指導ⅡA	演習	1	30			●							●		
		保育実習指導ⅡB	演習	1	30					○					○		
		保育実習ⅡA	実習	2	90			●							●		
		保育実習ⅡB	実習	2	90					○					○		
		幼稚園教育実習指導A	実習	1	45				■					■			
		幼稚園教育実習指導B	実習	1	45				■					■			
		幼稚園教育実習A	実習	4	180				■					■			
		幼稚園教育実習B	実習	2	90				■					■			
		小学校教育実習事前事後指導	実習	1	30				◆							◆	
		小学校教育実習	実習	4	180				◆							◆	
		保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	30							■●		■●			
		教職実践演習(小学校)	演習	2	30							◆				◆	
専門発展科目	人間と心理学の理解	心理学概論A	講義	2	30			△									「専門発展科目」8単位 小区分「人間と心理学の理解」から 2単位以上
		心理学概論B	講義	2	30			△									
		心理学研究法	講義	2	30			△									
		知覚心理学	講義	2	30					△							
		学習心理学	講義	2	30				△								
		現代社会心理	講義	2	30					△							
		臨床心理学	講義	2	30				△								
		心理統計学	講義	2	30			△									
	地域社会の理解	男女共同参画社会	講義	2	30				△								小区分「地域社会の理解」から 4単位以上
		共生社会と宗教	講義	2	30				△								
		青少年問題と社会教育	講義	2	30				△								
		生涯学習概論	講義	2	30					△							
		防災・安全教育	講義	2	30					□◇集中				□		◇	
		地域共生論	講義	2	30				△								
	保幼小接続と実践	幼小連携総論	講義	2	30				□◇					□		◇	小区分「保幼小接続と実践」から 2単位以上
		保幼小連携の実際	講義	2	30						△						
		遊びと教科教育	講義	2	30							△					
		小学校指導案研究	演習	1	30				◇※							◇	
		小学校教育臨床体験	実習	1	45	△	△	△	△	△							
		保育臨床体験	実習	1	45	△	△	△	△	△							
専門発展科目	実技ブランクティス	実践音楽A	演習	1	30			△									
		実践音楽B	演習	1	30			△									
		実践音楽C	演習	1	30				△								
		実践音楽D	演習	1	30					△							
		実践音楽E	演習	1	30						△						
		実践音楽F	演習	1	30							△					
		実践英語A	演習	1	30				△								
		実践英語B	演習	1	30					△							
		実践英語C	演習	1	30						△						
		実践英語D	演習	1	30							△					
		野外活動	演習・実習	1	30			△									
		キャンプ概論	講義	1	15			△									
		野外レクリエーション	演習	1	30			△集中									
	キャリア	小学校キャリア演習	演習	1	30						△						
		保育キャリア演習A	演習	1	30					△							
		保育キャリア演習B	演習	1	30				△								

区 分	科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		必修	幼教	保育	小学	備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
学 校 図 書 館 の 理 解 と 運 営	学校経営と学校図書館	講義	2	30				△									
	学校図書館メディアの構成	講義	2	30					△								
	学習指導と学校図書館	講義	2	30					△								
	読書と豊かな人間性	講義	2	30			△										
	情報メディアの活用	講義	2	30						△							
卒業研究	課題研究	演習	1	30						◎			◎				「卒業研究」必修5単位
	卒業研究	演習	4	120							◎通年	◎通年	◎				
リ メ デ ィ ア ル 科 目	社会科学基礎（言語・国語）	演習	1	30	▼												
	社会科学基礎（社会）	演習	1	30	▼												
	自然科学基礎（数学）	演習	1	30	▼												
	自然科学基礎（理科）	演習	1	30	▼												
	国際言語基礎（英語）	演習	1	30	▼												

卒業要件（合計124単位以上 ※自由科目を除く）
 ・基礎教育科目16単位以上（含 必修5単位、選択必修11単位上）
 ・専門教育科目28単位以上（含 必修17単位、選択必修11単位上）
 ・専門発展科目8単位以上
 ・卒業研究5単位

必修科目（合計27単位）
 ・基礎教育科目 5科目5単位
 ・専門教育科目 9科目17単位
 ・卒業研究 2科目5単位

選択必修科目（下記の要件を満たし、合計30単位以上）
 ・基礎教育科目（11単位以上）
 「基礎教養」より4単位以上
 ・専門教育科目（11単位以上）
 「領域及び指導法（保育系）より4単位以上
 「教科及び指導法（小学校系）より5単位以上
 ・専門発展科目（8単位以上）
 「人間と心理学の理解」より2単位以上
 「地域社会の理解」より4単位以上
 「保幼小接続と実践」より2単位以上

上記の必修・選択必修57単位に加え、基礎教育科目、専門教育科目、専門発展科目から合わせて67単位以上、
 総計124単位以上を取得すること。

区 分	科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		備考
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎教育科目	入門ゼミ	基礎ゼミⅠ	演習	1	30	◎							基礎教育科目より33単位以上
		基礎ゼミⅡ	演習	1	30		◎						
	基礎教養	文章表現の技術	講義	2	30		○	○					基礎教育科目(基礎教養)より8単位以上、(地域事情)より4単位以上
		くらしと倫理学	講義	2	30		○	○					
		くらしと文学	講義	2	30		○	○					
		くらしと憲法	講義	2	30	○		○					
		くらしと経済	講義	2	30	○		○					
		くらしと哲学	講義	2	30	○		○					
		日本語のしくみ	講義	2	30	○		○					
		ことばとコミュニケーション	講義	2	30		○	○					
		民俗と歴史	講義	2	30	○		○					
		社会学と社会システム	講義	2	30	○		○					
		環境と生物を考える	講義	2	30	○		○					
		生物学の探究	講義	2	30	○		○					
		人間と宇宙を考える	講義	2	30	○		○					
	外国語	英語Ⅰ	演習	1	30	◎							
		英語Ⅱ	演習	1	30		◎						
		英語コミュニケーションⅠ	演習	1	30	○		○					
		英語コミュニケーションⅡ	演習	1	30		○	○					
		韓国語Ⅰ	演習	1	30	○		○					
		韓国語Ⅱ	演習	1	30		○	○					
		中国語Ⅰ	演習	1	30	○		○					
		中国語Ⅱ	演習	1	30		○	○					
		フランス語Ⅰ	演習	1	30	○		○					
		フランス語Ⅱ	演習	1	30		○	○					
	保健体育	スポーツサイエンスⅠ	講義	1	30	○							
		スポーツサイエンスⅡ	講義	1	30		○						
	情報処理	コンピュータ基礎演習	演習	1	30	◎							
		情報倫理	講義	2	30	◎							
		情報検索	演習	1	30		○						
		情報処理演習Ⅰ	演習	1	30		○						
		情報処理演習Ⅱ	演習	1	30			○					
		情報処理演習Ⅲ	演習	1	30			○					
		ネットワーク応用演習	演習	1	30			○					
		情報機器演習	演習	1	30			○					
	図書館	生涯学習概論	講義	2	30			○					
		図書館概論	講義	2	30	○		○					
		図書館制度・経営論	講義	2	30			○					
		図書館情報技術論	講義	2	30	○		○					
	地域事情	山形の歴史・文化	講義	2	30		○	○					
		山形の政治と行政	講義	2	30		○	○					
		山形の産業と経済	講義	2	30	○		○					
		山形のことばとくらし	講義	2	30		○	○					
		山形の信仰と伝承	講義	2	30	○		○					
	海外事情	アメリカ事情	講義	2	30	○		○					
		ヨーロッパ事情	講義	2	30		○	○					
		中国事情	講義	2	30		○	○					
		韓国事情	講義	2	30	○		○					
	海外研修	海外語学研修A（英語）	実習	2	90	○	○	○	○	○	○	○	
		海外語学研修B（韓国語）	実習	2	90	○		○		○		○	
		海外語学研修C（中国語）	実習	2	90	○		○		○		○	
	社会体験	ボランティア論	講義	2	30	○							
		ボランティア活動実践	実習	1	45		○	○	○	○	○	○	
		企業研究	講義	2	30		○	○					
		インターンシップ	実習	1	45			○					

区 分		科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		備 考
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	中 心 科 目	人間関係論	講義	2	30		◎							専門教育科目より66単位以上 専門教育科目(中心科目)より6単位以上(人間関係プロジェクトA・B・Cより2単位以上)
		人間関係演習Ⅰ	演習	1	30			◎						
		人間関係演習Ⅱ	演習	1	30				◎					
		人間関係プロジェクトA (コミュニケーションと心理)	演習	1	30					○				
		人間関係プロジェクトB (福祉とコミュニケーション)	演習	1	30					○				
		人間関係プロジェクトC (心理と福祉)	演習	1	30					○				
	専 門 基 盤 科 目	人 間 の 理 解	心理学概論A	講義	2	30	○							専門教育科目(専門基盤科目)より22単位以上(人間の理解より8単位以上、関係の構築・調整より4単位以上、協働力より4単位以上)
			心理学概論B	講義	2	30		○						
			教育心理学	講義	2	30				○				
			障害者・障害児心理学	講義	2	30					○			
			家族心理学	講義	2	30						○		
			福祉心理学	講義	2	30				○				
			心理調査概論	講義	2	30			○					
			現代社会心理	講義	2	30		○						
			多文化理解	講義	2	30			○	○				
			社会福祉調査の基礎	講義	2	30			○	○				
			障がい者福祉論	講義	2	30		○	○					
			児童福祉論	講義	2	30		○	○					
			高齢者福祉論	講義	2	30			○	○				
			医学概論	講義	2	30			○		○			
		関 係 の 構 築 ・ 調 整	関係構築の心理	演習	1	30		○						
			産業・組織心理学	講義	2	30				○				
			社会・集団心理学	講義	2	30				○				
			メディアと人間関係	講義	2	30			○	○				
			文字表現論	講義	2	30		○	○					
			対話表現論	講義	2	30	○		○					
		協 働 力	地域と多文化	講義	2	30			○		○			
			地域共生論	講義	2	30			○		○			
			異文化間コラボレーション	講義	2	30				○		○		
			保健医療と福祉	講義	2	30				○		○		
			社会福祉概論Ⅰ	講義	2	30	○		○					
			地域福祉論Ⅰ	講義	2	30	○		○					
	専 門 発 展 科 目	グ ロー カ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 領 域	くらしと地域	講義	2	30				○		○		専門教育科目(専門発展科目)より38単位以上(グローバルコミュニケーション領域、心理総合領域、福祉マネジメント領域のいずれかより20単位以上、「実践領域」の「グローバルコミュニケーション実践」「心理総合実践」「福祉マネジメント実践」のどれか1区分から4単位以上)
			地域政策論	講義	2	30			○		○			
			談話コミュニケーション論Ⅰ	講義	2	30			○					
			談話コミュニケーション論Ⅱ	講義	2	30				○				
			日本語学Ⅰ	講義	2	30			○					
			日本語学Ⅱ	講義	2	30				○				
			異文化論Ⅰ	講義	2	30			○					
			異文化論Ⅱ	講義	2	30				○				
			対照言語コミュニケーション論Ⅰ	講義	2	30			○					
			対照言語コミュニケーション論Ⅱ	講義	2	30				○				
			談話言語演習	演習	1	30			○		○			
			談話コミュニケーション演習	演習	1	30				○		○		
			地域言語演習	演習	1	30			○		○			
			地域言語コミュニケーション演習	演習	1	30				○		○		
			異文化演習	演習	1	30			○		○			
			異文化コミュニケーション演習	演習	1	30				○		○		
			言語理解演習	演習	1	30			○		○			
			対照言語コミュニケーション演習	演習	1	30				○		○		
			英語エクスプレッションスキル	講義	2	30			○		○		○	
			中国語エクスプレッションスキル	講義	2	30			○		○		○	
			韓国語エクスプレッションスキル	講義	2	30			○		○		○	

区 分		科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		備考
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 教 育 科 目	心理総合領域	臨床心理学	講義	2	30			○						
		心理学研究法	講義	2	30			○						
		心理学統計法	講義	2	30			○						
		心理測定法	講義	2	30			○						
		人格心理学	講義	2	30					○				
		知覚心理学	講義	2	30				○					
		学習心理学	講義	2	30			○						
		神経心理学	講義	2	30						○			
		生理心理学	講義	2	30						○			
		キャリア発達の心理学	講義	2	30					○				
		健康・医療心理学	講義	2	30						○			
		発達心理学	講義	2	30			○						
		教育相談	講義	2	30								○	
		対人関係論	講義	2	30								○	
		対人行動論	講義	2	30								○	
		対人認知論	講義	2	30					○				
	福祉マネジメント領域	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2	30			○						
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2	30				○					
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2	30			○		○				
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2	30				○		○			
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	講義	2	30					○		○		
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	講義	2	30						○			
		社会福祉概論Ⅱ	講義	2	30			○		○				
		地域福祉論Ⅱ	講義	2	30			○		○		○		
		刑事司法と福祉	講義	2	30			○		○				
		社会福祉施設運営論	講義	2	30				○		○			
		社会保障論Ⅰ	講義	2	30						○			
		社会保障論Ⅱ	講義	2	30							○		
		公的扶助論	講義	2	30			○		○		○		
		権利擁護と成年後見制度	講義	2	30					○		○		
	実践領域	グローバルコミュニケーション実践	演習	1	30				○		○		○	
		中国語エクспRESSION実践	演習	1	30				○		○		○	
		韓国語エクспRESSION実践	演習	1	30				○		○		○	
		国際コミュニケーションスキル	演習	1	30			○		○				
		マルチ言語プロジェクト	演習	2	30				○		○			
		プロジェクトツアーA	実習	2	90			○		○				
		プロジェクトツアーB	実習	2	90				○		○			
		心理学基礎実験	実験	1	45			○						
		心理学実験A	実験	1	45				○					
		心理学実験B	実験	1	45					○				
		社会心理学調査実習	実習	1	45						○			
		心理検査法実習	実習	1	45						○			
		心理的アセスメント	講義	2	30						○			
		臨床心理学演習	演習	1	30					○				
		心理演習	演習	2	60					○ (通年)				
		社会福祉士演習Ⅰ	演習	1	30							○		
		社会福祉士演習Ⅱ	演習	1	30								○	
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	2	30			○						
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	2	30				○					
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	2	30					○				
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	演習	2	30						○			
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	演習	2	30							○		
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1	30					○				
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	1	30						○			
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	1	30							○		
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	2	90					○				
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	4	180						○			

区 分		科 目	形態	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		備考	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
卒 業 科 業 目 研		課題研究	演習	1	30							◎		卒業研究科目 2科目 5単位	
		卒業研究	演習	4	120								◎ (通年)		
自由科目	リ メ デ ィ ア ル	社会科学基礎 (言語・国語)	演習	1	30	△									
		社会科学基礎 (社会)	演習	1	30	△									
		自然科学基礎 (数学)	演習	1	30	△									
		自然科学基礎 (理科)	演習	1	30	△									
		国際言語基礎 (英語)	演習	1	30	△									
	司 書 資 格 に 係 る 科 目	図書館サービス概論	講義	2	30			△		△					
		情報サービス論	講義	2	30			△		△					
		児童サービス論	講義	2	30				△		△				
	司 書 資 格 に 係 る 科 目	情報サービス演習A	演習	1	30				△		△				
		情報サービス演習B	演習	1	30			△		△					
		図書館情報資源概論	講義	2	30		△		△						
		情報資源組織論	講義	2	30	△		△							
		情報資源組織演習A	演習	1	30		△		△						
		情報資源組織演習B	演習	1	30			△		△					
		図書館基礎特論	講義	1	15		△		△						
		図書館サービス特論	講義	1	15						△				
		図書館情報資源特論	講義	1	15			△							
		図書・図書館史	講義	1	15		△		△						
	資 格 比 ・ デ ジ タ ル リ テ ラ シ ー	デジタル・アーキビスト概論	講義	2	30			△		△					
		地域文化とデジタル・アーカイブ	講義・演習	2	30					△		△			
	キ ャ ン ペ ィ ン グ	TOEIC対策	演習	1	30	△		△		△			△		
		韓国語検定対策	演習	1	30		△		△		△			△	
		中国語検定対策	演習	1	30	△		△		△			△		

卒業要件 (合計124単位以上 *自由科目を除く)

- ・基礎教育科目33単位以上 (含 必修7単位、選択必修26単位以上)
- ・専門教育科目66単位以上 (必修4単位、選択必修62単位以上)
- ・卒業研究科目5単位必修

必修科目 (合計16単位)

- ・基礎教育科目 6科目7単位
- ・専門教育科目 3科目4単位
- ・卒業研究科目 2科目5単位

選択必修 (下記の要件を満たし、合計88単位以上)

- ・基礎教育科目 (26単位以上)
 - 「基礎教養」より8単位以上
 - 「地域事情」より4単位以上
- ・中心科目 (2単位以上)
 - 「人間関係プロジェクトA・B・C」より2単位以上
- ・専門基盤科目 (22単位以上)
 - 「人間の理解」より8単位以上
 - 「関係の構築・調整」より4単位以上
 - 「協働力」より4単位以上
- ・専門発展科目 (38単位以上)
 - 「グローバルコミュニケーション領域」「心理総合領域」「福祉マネジメント領域」のどれか1区分から20単位以上
 - 「実践領域」の「「グローバルコミュニケーション実践」「心理総合実践」「福祉マネジメント実践」のどれか1区分から4単位以上

上記の必修・選択必修科目104単位に加え、基礎教育科目、専門教育科目から合わせて20単位以上、総計124単位以上を取得すること。

2024年度 教務委員会職務分掌

委員長 鈴木 隆

副委員長 阿部裕美

委員	子ども教育学科	眞壁 豊	杉中拓央	曾根章友	
	人間関係学科	松田浩平	阿部裕美	永盛善博	依田 平
	子ども学科	宮下 通	久島裕介		
	現代福祉学科	齋藤美穂	菊地一穂		
	学務課	山本幾子			

職務内容及び分担

1. カリキュラム改訂をめぐる職務

1) 職務内容

- ① 次年度カリキュラム改訂
- ② 諸検定試験の検討

※必要に応じて各学科で担当者を決める

2. 学年歴・試験

1) 職務内容

- ① 学年歴の作成
各学科及び各課との調整
- ② 定期試験
実施日の調査及び調整（実施科目・時期・監督等）
不正行為防止策の検討
不正行為を行った学生の処分検討
追・再試験の設定及び調整
その他
- ③ その他
オリエンテーション
学科行事

※必要に応じて各学科で担当者を決める

3. 学生の履修指導に関する検討

1) 職務内容

退学・休学・復学・除籍・長期欠席の学生に対する指導
学科との連絡・担当者配置
面談設定
履修計画の立案（復学・転科者の場合）

※必要に応じて各学科で担当者を決める

4. 小委員会

1) 学修成果検討小委員会

- ① 職務内容 妥当性のある定量的評価について検討
- ② 担当者 眞壁 豊 永盛善博 宮下 通

2) 教務関連法規等検討小委員会

- ① 職務内容 教務関連事項の法制面の解釈・検討
履修規程に関する事項検討
- ② 担当者 松田浩平 依田 平 杉中拓央 久島裕介

3) シラバス検討・作成小委員会（シラバスチェック含む）

- ① 職務内容 シラバス作成の検討・編集・校正等
- ② 担当者 永盛善博 眞壁 豊 久島裕介 菊地一穂

4) 時間割検討・作成、学年暦検討小委員会

- ① 職務内容 時間割の作成・学年暦検討
- ② 担当者 曾根章友 依田 平 宮下 通 齋藤美穂

5) 単位互換履修生、科目等履修生の取扱いに関する小委員会

- ① 職務内容
 - ・科目等履修生の履修に関すること
 - ・大学・短期大学部間の単位互換に関すること
 - ・コンソーシアム山形の単位互換に関する包括協定に基づく特別聴講生の受入れ・派遣
- ② 担当者 杉中拓央 阿部裕美 菊地一穂

6) 教養科目検討小委員会

- ① 職務内容 全学横断的な教養科目カリキュラム編成を検討する
- ② 担当者 阿部裕美 曾根章友 齋藤美穂

7) ICT教育関係小委員会

- ① 職務内容 ICT教育内容の改善について検討する
- ② 担当者 眞壁 豊 依田 平 久島裕介

8) 数理・DS・AI教育プログラム推進小委員会

- ① 職務内容 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に係る事項について検討し、申請の準備する
- ② 担当者 眞壁 豊 依田 平

東北文教大学 数理・DS・AI 教育プログラム推進委員会 規程

(設置)

第1条 東北文教大学 数理・DS・AI 教育プログラム推進委員会（以下、推進委員会という。）は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの推進ならびに教育課程の編成等に関する事項について、学内の関係部局等と連携を図りながら、審議することを目的に設置する。

(構成)

第2条 推進委員会は、以下に挙げる人員から構成する。

- (1) 委員長
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関わる教員
- (3) コンピュータセンター長
- (4) 学務課職員
- (5) 必要に応じ学長が委嘱する者

(委員長)

第3条 推進委員会に、委員長を置き、学長が指名する。

(協議事項)

第4条 推進委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの推進に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの教育課程の編成に関すること。
- (3) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの自己点検・評価に関すること。
- (4) その他、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関すること。

(運営)

第5条 委員長は、推進委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、学長が指名する者がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第6条 推進委員会は、必要と認めたときは、推進委員会構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員会事務)

第7条 推進委員会に関する事務は、学務課が担当する。

(改正)

第8条 この規程の改正は、教授会の審議を経て、学長が行う。

附則

1. この規程は、令和7年4月1日から施行する。
2. 本委員会における自己点検・評価は、学長を委員長とする自己点検・評価委員会へ自己点検・評価報告シートとして報告し、当該教育プログラムの推進状況を全学で共有する。

2024年度 教務委員会職務分掌

委員長 鈴木 隆

副委員長 阿部裕美

委員	子ども教育学科	眞壁 豊	杉中拓央	曾根章友	
	人間関係学科	松田浩平	阿部裕美	永盛善博	依田 平
	子ども学科	宮下 通	久島裕介		
	現代福祉学科	齋藤美穂	菊地一穂		
	学務課	山本幾子			

職務内容及び分担

1. カリキュラム改訂をめぐる職務

1) 職務内容

- ① 次年度カリキュラム改訂
- ② 諸検定試験の検討

※必要に応じて各学科で担当者を決める

2. 学年歴・試験

1) 職務内容

- ① 学年歴の作成
各学科及び各課との調整
- ② 定期試験
実施日の調査及び調整（実施科目・時期・監督等）
不正行為防止策の検討
不正行為を行った学生の処分検討
追・再試験の設定及び調整
その他
- ③ その他
オリエンテーション
学科行事

※必要に応じて各学科で担当者を決める

3. 学生の履修指導に関する検討

1) 職務内容

退学・休学・復学・除籍・長期欠席の学生に対する指導
学科との連絡・担当者配置
面談設定
履修計画の立案（復学・転科者の場合）

※必要に応じて各学科で担当者を決める

4. 小委員会

1) 学修成果検討小委員会

- ① 職務内容 妥当性のある定量的評価について検討
- ② 担当者 眞壁 豊 永盛善博 宮下 通

2) 教務関連法規等検討小委員会

- ① 職務内容 教務関連事項の法制面の解釈・検討
履修規程に関する事項検討
- ② 担当者 松田浩平 依田 平 杉中拓央 久島裕介

3) シラバス検討・作成小委員会（シラバスチェック含む）

- ① 職務内容 シラバス作成の検討・編集・校正等
- ② 担当者 永盛善博 眞壁 豊 久島裕介 菊地一穂

4) 時間割検討・作成、学年暦検討小委員会

- ① 職務内容 時間割の作成・学年暦検討
- ② 担当者 曾根章友 依田 平 宮下 通 齋藤美穂

5) 単位互換履修生、科目等履修生の取扱いに関する小委員会

- ① 職務内容
 - ・科目等履修生の履修に関すること
 - ・大学・短期大学部間の単位互換に関すること
 - ・コンソーシアム山形の単位互換に関する包括協定に基づく特別聴講生の受入れ・派遣
- ② 担当者 杉中拓央 阿部裕美 菊地一穂

6) 教養科目検討小委員会

- ① 職務内容 全学横断的な教養科目カリキュラム編成を検討する
- ② 担当者 阿部裕美 曾根章友 齋藤美穂

7) ICT教育関係小委員会

- ① 職務内容 ICT教育内容の改善について検討する
- ② 担当者 眞壁 豊 依田 平 久島裕介

8) 数理・DS・AI教育プログラム推進小委員会

- ① 職務内容 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に係る事項について検討し、申請の準備する
- ② 担当者 眞壁 豊 依田 平

各部署における自己点検・評価の実施要項

1. 目的

大学の社会的使命や独自性を認識し、教育研究活動の継続的な質の保証を図るため、年度内の前期・後期に各部署における自己点検・評価を実施し、その成果を全学的に共有して大学改革・改善に役立てていく。

2. 対象

全学科・全委員会およびセンター会議・その他研究センターなど

*別紙「自己点検・評価の実施報告の方法」を参照のこと

3. 実施期間と報告（報告シートの提出）期限

	実施期間	報告期限
前期	8月～9月	9月末日
後期	1月～2月	2月末日

4. 報告シートの提出先

提出先：自己点検・評価室

5. 点検・評価の方法

- 1) 各部署の定例の会議などで行う。とくに年度初めは、前年度の実施内容を踏まえ、年間の計画を検討する
- 2) 認証評価機関の方針にしたがい PDCA サイクルで行い、可能な限りエビデンスを伴い客観性を持たせる
- 3) 点検・評価の観点を以下のように定める
 - ▶「指定」実施：中長期計画や事業計画に沿うもので報告を必須とする（以下の観点が該当しない部署は除く）

観点…①2020年3月27日付で示されている学校法人富澤学園の「第2期中長期計画」および「2024年度事業計画」の進捗状況から

②認証評価で求められる事柄

- ・定員充足への取組み
- ・建学の精神および教育目的・目標ならびに三つの方針の点検

・学修成果に係る点検

- ③各部署における前年度の自己点検・評価を受けての進捗状況から
- ④各部署における当該年度の事業計画等の実施状況から

補足…学校法人富澤学園の「2024 年度事業計画」から必須と思われる項目について事前に報告シートに記載した

1) 4 学科対象

「不断の教育改革の取り組み」に関する項目

- ①学びの質保証と達成度の把握、②授業外学びの教育支援、③正課外活動の充実、④退学者及び留年者の極小化

2) 全学対象

「ステークホルダーからの意見」に関する項目

- ①生徒の受け皿づくり、②社会人向けコミュニティカレッジの環境づくり、③探求学習における高大連携、④広報上のアピール強化

*ただし、関係する項目のみ実施

項目の趣旨は、「令和5 年度 ステークホルダーからの意見聴取会 報告書」を参照のこと。とくに p.9「意見聴取を受けて」

▶「裁量」実施：各部署の裁量に委ねる

*なお、点検・評価は、全学的な共有に値するもので、各部署内の詳細に関することは報告の対象としない

6. 報告の方法

- 1) 点検・評価の結果を、「自己点検・評価 報告シート」にまとめる
- 2) 別紙「自己点検・評価の実施報告の方法」にしたがい、それぞれの該当する方法で報告する

7. 点検・評価の共有

年度末に「教務・事務サポートシステム」の「文書閲覧」に掲載して全学的に成果を共有する

8. その他

- 1) 点検・評価の成果は、各部署における次年度の申し送り事項として確認すること。
また、新年度には、新体制の下で、前年度からの申し送り事項を確認し、当該年度の事業運営にあたること
- 2) 点検・評価の成果は、当該年度の自己点検・評価報告書に反映させること。

認証評価(R6) 自己点検・評価の実施報告の方法

実施時期	前期:8月～9月 後期:1月～2月		
報告シートの提出期限	前期:9月末日 後期:2月末日		
報告シートの提出先	◎カテゴリー	◎カテゴリー	▲カテゴリー
	大学改革・評価室 (＊自己点検・評価委員会で報告)	大学改革・評価室	関連する部署で報告
対象部署	＊自己点検・評価委員会 ＊子ども教育学科 ＊人間関係学科 ＊子ども学科 ＊現代福祉学科 ＊留学生別科 ＊入試委員会 ＊入試広報センター委員会 ●教務委員会 ＊学生厚生委員会 ＊進路支援センター委員会	◎評議委員会 ◎障害学生支援委員会 ◎奨学生委員会 ◎人事委員会 ◎情報管理委員会 ◎教育開発センター委員会 ◎研究開発センター委員会 ◎国際交流委員会 ◎研究倫理審査委員会 ◎出版・研修委員会 ◎教職課程委員会 ◎実習センター委員会 ◎教職実践センター委員会 ◎学修支援センター委員会 ◎総務委員会 ◎国際センター委員会 ◎地域連携・ボランティアセンター委員会 ◎総務課(◎運営企画室) ◎入試広報センター ◎大学改革・評価室 ◎IR室 ◎福祉推進センター ◎高大連携委員会 ◎衛生委員会 ◎学務課 ◎保健センター(カウンセリングセンター) ◎進路支援センター ◎コンソーシアム山形担当委員会 ◎保護者会・教育後援会 ◎民話研究センター ◎幼児教育研究センター ◎児童教育研究センター ◎ラーニングコモンズ運営委員会 ◎コンピュータセンター ◎図書館運営委員会 ◎体育館運営委員会	▲教育開発センター ▲研究開発センター ▲地域連携・ボランティアセンター ▲教職実践センター ▲学修支援センター ▲国際センター ▲実習センター ▲図書館 ▲体育館

R6年度より変更

東北文教大学 数理・DS・AI 教育プログラム推進委員会 規程

(設置)

第1条 東北文教大学 数理・DS・AI 教育プログラム推進委員会（以下、推進委員会という。）は、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの推進ならびに教育課程の編成等に関する事項について、学内の関係部局等と連携を図りながら、審議することを目的に設置する。

(構成)

第2条 推進委員会は、以下に挙げる人員から構成する。

- (1) 委員長
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関わる教員
- (3) コンピュータセンター長
- (4) 学務課職員
- (5) 必要に応じ学長が委嘱する者

(委員長)

第3条 推進委員会に、委員長を置き、学長が指名する。

(協議事項)

第4条 推進委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの推進に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの教育課程の編成に関すること。
- (3) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの自己点検・評価に関すること。
- (4) その他、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関すること。

(運営)

第5条 委員長は、推進委員会を招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、学長が指名する者がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第6条 推進委員会は、必要と認めたときは、推進委員会構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員会事務)

第7条 推進委員会に関する事務は、学務課が担当する。

(改正)

第8条 この規程の改正は、教授会の審議を経て、学長が行う。

附則

1. この規程は、令和7年4月1日から施行する。
2. 本委員会における自己点検・評価は、学長を委員長とする自己点検・評価委員会へ自己点検・評価報告シートとして報告し、当該教育プログラムの推進状況を全学で共有する。

大学等名	東北文教大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	東北文教大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

東北文教大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 取組概要

プログラムの目的

本教育プログラムの目的は、右の「身に付けられる能力」から導かれる、以下の能力を持つ学生を育成することを目的とします。

- ① 数理・データサイエンス・AIへの関心を高める。
- ② 数理・データサイエンス・AIを適切に理解する。
- ③ 数理・データサイエンス・AIを活用するために必要な知識及び技術を体系的に修得する。

身に付けられる能力

人間科学分野におけるデータやAIの利活用ならびにそれに伴う社会の変化や、情報倫理の重要性を理解し、データやAIを適切に扱う基礎的な能力・技術を獲得する。

科目の構成・修了要件

子ども教育学科	人間関係学科
【必修科目】 コンピュータ基礎演習(1単位) 情報科学(2単位) コンピュータ応用演習(1単位)	【必修科目】 基礎ゼミⅠ(1単位) 基礎ゼミⅡ(1単位) 情報倫理(2単位)、 情報処理演習Ⅰ(1単位) 情報処理演習Ⅱ(1単位) 【選択必修科目（どちらか1科目）】 情報処理演習Ⅲ(1単位) 情報検索(1単位)

※ 表中にある「必修」「選択」の表記は、本教育プログラムにおける表記であり、他の資格取得要件や、卒業要件としての位置付けは、別に定められている。

実施体制

東北文教大学 数理・DS・AI教育プログラム推進委員会
(自己点検・評価、プログラムの改善・向上)



連携

教務委員会

授業担当教員